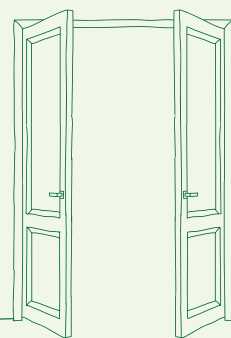


私のネクストステージ

—退職者への質問状—

Vol.41



シルバー人材センターで見つけた「きょうよう」と「きょういく」



元会社員 **酒井 勝広さん (76歳) 2011年退職**

【さかい・かつひろ】1944年、新潟県出身。農家の三男坊として生まれ、東京農業大学で農業経済を学ぶ。大学卒業後、東京都中央卸売市場内にある卸売会社に入社。アルバイトから始めて取締役、副社長となり67歳で退職。

—酒井さんは現役時代、どのような仕事をされていたのですか。

私は東京農業大学で農業経済を学んだ後、東京都中央卸売市場にある卸売会社で、果実部門の競り人を務めていました。早朝から出勤し、全国各地の生産者の状況を知るため出張も多かったのですが、現役時代、家にはあまりいないような生活でした。

67歳で退職後は、これと言ってやることもなく、毎日散歩をしていたのですが、それもすぐに飽きてしまいました。かと言って、ずっと家にいると妻が不機嫌になります。私がいらない毎日に慣れてしまったら、長年の生活リズムが崩れてしまったり、友人を自宅に呼べなくなったりしたのでしょ。

—退職後、夫が毎日家にいるようになって大変だという話は、よく聞きますからね。

ある日、いつものように散歩していたら、同じ町会の友人が、植木屋として働いている姿を見かけました。話を聞けば、シルバー人材センターから紹介されて、仕事をしていると言うんですね。毎日遊んで暮らしているよりも、働いていたほうがいいからと。私もずっと家にいるだけじゃダメだと思い、川口市シルバー人材センターを訪ねました。

—そこでやりたい仕事は見つかりましたか？

面接の時、最初は農園の野菜作りの仕事を希望しました。というのも、50歳の時から大学の校友会の仲間たちと一緒に

土地を借りて、米や野菜、果樹を作り、子どもたちにも食育の場として役立ててもらおう活動をしていたんですね。イベントで田植えや稲刈りをしたり、収穫した農作物を使って料理を作って食べたり。活動は月に数回程度で続けていきましたし、野菜作りはもともと好きでしたから。

残念ながら、川口市シルバー人材センターに野菜作りの仕事はありませんでしたが、植木の剪定なら仕事があると。しかも人員不足だと。自宅の植木だったら剪定したとがありましたし、現役時代、果樹の剪定を何度も見ていましたので、自分にもできそうだと思います。植木の剪定で会員登録することになりました。

—その後、仕事はどのようにして、覚えていかれたのでしょうか。

植木の剪定を担当する班は3つあって、各班6〜8名の会員で構成されています。植木屋業界は昔ながらの職人の世界で、基本的に先輩たちの仕事を見て覚えていくスタイルなので、植木はどうやって形を整えればいいのか、どんなバランスがきれいなのか、剪定後の植木をよく見て研究したり、皆さんに話を聞いたり、教えてもらったりしながら、技術を身につけていきました。

—皆さん、同年代なのですか。

私は68歳から始めましたが、一番多いのは70歳代です。65歳だとかかなり若手で、最高齢は86歳の方がいらっしました。

大学の校友会の仲間たちと農業部会を結成し、月1回くらいの頻度でイベントを開催している



農業部会の活動は30年近く続けている

剪定は高所での作業が多い



切り落とした枝の束は8kg～10kgの重さがある



電動のこぎりなどの道具を使用する際は特に注意を要する

シルバー人材センターについて

シルバー人材センターは、原則、市町村単位で置かれ、都道府県知事の指定を受けた社団法人が運営している。公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会によると、全国の加入者数は男性約47万人、女性約24万人で、平均年齢は男性73.3歳、女性72.6歳となっている（令和元年）。

仕事は、屋内外の清掃や除草、福祉・家事の援助、スーパーでのカートの整理、育児支援、学童通学の見守りが多いが、一般事務、内装工事、農業支援、翻訳・通訳、講師などもある。

高齢者が地域社会に参加し、生きがいを見い出すことを目的としているため、会員によるサークル活動なども行われている。地域社会に入っていききっかけをどうやって掴んだらいいかわからない方にとっては、良いきっかけになるのではないだろうか。

「仕事で大変なことは、何ですか。」
屋外での仕事ですから、夏の猛暑や冬の厳しい寒さの中でも作業しなければなりません。毒をもつ毛虫や蜂などに刺されないよう、真夏でも長袖の作業着を着ていると、体感温度はかなり高くなります。そんな時は、熱中症にかからないよう、こまめに水分を補給したり、炎天下の作業を

定年後も65歳まで雇用延長できるようになり、会員の年齢も高くなったようです。
「仕事の頻度はどのくらいですか。」
「臨時的かつ短期的な就業」が基本で、お客さまからの注文の量によって変わってきます。それに、庭木の剪定は屋外での作業ですから、天気にも左右されます。雨の日に濡れたはしごで足を滑らせて、ケガでもしたら、元も子もないですからね。
班長を務めていた2年間は、班全員の仕事の予定を組んだり、車に道具を積んで早めに現場に入ったりしていました。

「お話し頂き、ありがとうございました。」
を、80歳までは続けていくつもりです。

避けるなど工夫しています。
「逆に、やりがいを感じられるのはどんな時でしょうか。」
草木が伸び放題になっていた庭をきれいにし、お客さまが笑顔になられたり、「剪定したら陽の光が入るようになって、家の中が明るくなりました」と感謝されると、やりがいを感じます。剪定も、自分で納得いく出来映えだと、嬉しいですね。
「それでは、最後に一言お願いします。」
定年前に受けた講座で、「きょうよう（今日・日・用事がある）」と「きょういく（今日行くところがある）」が大事だと教わりました。川口市シルバー人材センターで働くようになり、現役時代は関わりがなかったいろんな業界出身の方と出会えましたし、いろんな話をする中で、視野も広がりました。「きょうよう」と「きょういく」のある生活を、80歳までは続けていくつもりです。